

「AIは何でもできる魔法の技術ではない」

—産学連携の現場からみたAI導入の課題—

AIは、科学・医療・金融・マーケティングなど、我々の生活に劇的な変革をもたらす技術となっています。しかし、モノづくりの現場、たとえば、製品の検査工程に、AIシステムメーカーが提供するAI画像システムを導入すれば、今日から人手による目視検査が即ゼロになるという魔法の技術ではありません。事前に処理すべき事項も多岐にわたります。そこで今回は、画像などのメディア処理に最先端の機械学習やAI技術を応用する研究を行い、産学連携や京都府中小企業特別技術指導員として画像処理やAI導入で課題を抱えたモノづくり中小企業とかかわってきた本学教員が、現場感のあるAI導入のために理解しておくべきことを紹介致します。

◆ 講演

講師：藤田 和弘氏 龍谷大学 先端理工学部 知能情報メディア課程 教授

講演概要： AI という用語が流行し、経営に関係する方々の中には、あたかも汎用的なAI がすでに完成し、問題を与えれば、その問題を解決してもらえるとっておられる方がおられます。また、従来の情報処理技術者の中には、学習済みのモデルを使えば、実際の画像識別も容易であるとおられる方がおられます。そういう状況があるために、不幸なケースが発生していると思っています。

私の発想では、現状はあくまでも機械学習であり、前処理としての画像処理も必要ですし、機械学習のモデルがちゃんと学習できているのかを確認し検証することも必要ですし、不都合な学習サンプルを見つけることも必要であると考えます。

講演では、工業製品の不良品識別を例に挙げて、機械学習による手法はどのようなものであるかについて、説明したいと思います。その中で、注意すべきことに触れたいと思います。これからは、産業界の応用に関しても、機械学習のモデルをブラックボックスのままとするのではなく、Explainable Machine Learning に進んでいくべきと考えています。

日時： 2021年11月10日（水） 13:30～15:00

会場： ①ZOOMウェビナー による WEB開催

②先着20名様まで対面形式でも参加できます(申込方法等裏面記載)

※コロナ感染の状況によりオンライン開催に限定する場合があります

参加費： 無料

募集締切： 2021年11月1日（月）

主催： 龍谷大学 龍谷エクステンションセンター（REC）

公益財団法人 りそな中小企業振興財団